

縮小市場においても積極的な商品開発で市場開拓 地道な現地調査と商品開発で海外市場も攻める

1793年に長崎県諫早市で創業した老舗菓子舗。稲作が盛んな地域であったことと、シュガーロードの宿場町であったため砂糖が入手しやすかったことから、「森長おこし」を開発。以来、和菓子を中心に製造販売を行ってきた。「伝統を守り、革新を追い求める」を企業理念とする同社の新たなチャレンジとして、1974年から長崎カステラの製造販売を開始。2009年には、カステラ派生商品の代表格となる「半熟生カステラ」の製造販売を開始。2015年から輸出も開始し、各国で好評を得ている。

所在地 長崎県諫早市幸町38-30
電話/FAX 0957-21-2121/0957-21-2122
URL <https://kashuen-moricho.co.jp/>
代表者 代表取締役社長 森 淳

設立 1793年
資本金 600万円
従業員数 38人



縮小するカステラ市場を切り開くための国内外のニーズに基づく商品開発

カステラの国内市場は縮小傾向にあるが、同社は従来の概念にとらわれない企画力と、200年以上培った確かな菓子製造技術により、直近8年間で30種の新商品開発を進めた。開発商品には、「半熟生カステラ」などカステラの枠を超えたカステラ派生商品や、タイ人の嗜好を踏まえた「生カステラmini(いちごチーズ)」や、ベトナム産コーヒーを使用した「ベトナム珈琲カステラ」などの海外向け商品、物流コスト削減につながる長期保存タイプのアルミ包装カステラ「カステラざんまい長持ち」などがある。



大ヒット商品「半熟生カステラ」

課題を一つひとつクリアし実現した海外事業は12か国13地域に広がる

世界に長崎カステラを広めたいという思いから、地道な現地調査を経た後、2014年にタイで催事販売を実施。その結果、タイに加え香港や韓国から受注がはいる、2015年から本格的に海外事業を開始した。海外事業特有のビザ面、契約面などあらゆる問題も降りかかってきたが、行動力と実行力で乗り越えた。現在はタイを中心に12か国13地域に輸出しており、長崎県内のカステラを製造する企業のなかでは、最も多くの国・地域に輸出している。日タイ経済連携協定の積極的な活用は同社の強みのひとつとなっている。



初の海外催事出展の様子

長崎県産素材の活用やふるさと納税の返礼品提供で地域社会に貢献

原材料は長崎県産素材の活用にこだわり、卵も長崎県産を中心に使用している。長崎県内養鶏農家のブランド卵「太陽卵」や長崎県養鶏農業協同組合の高品質な卵は、同社のカステラの付加価値を向上させるうえで不可欠である。また長崎県産卵を付加価値の高いカステラにして海外にも販売していくことは、卵の紹介にもつながり地域貢献のひとつである。さらに、2015年からふるさと納税の返礼品としても商品を提供しており、地域資源の積極的な活用と地域経済活性化に貢献している。



タイ語をプリントした販売用ポロシャツ